



<プレスリリース>

2018 年 5 月 14 日
ナイキジャパングループ合同会社
一般財団法人 児童健全育成推進財団

オリジナル運動遊びプログラム“JUMP-JAM”で、 子どもたちと大人と一緒に遊べる『JUMP-JAM Park』開催 1 日限定イベントに約 1000 名が来場、体を動かして遊ぶ楽しさを体験

米国 NIKE Inc./ナイキジャパングループ合同会社（本社：東京都港区、ゼネラル・マネージャー：クリストフ・メルケル、以下ナイキ）と、一般財団法人児童健全育成推進財団（本部：東京都渋谷区、理事長：鈴木一光、以下児童健全育成推進財団）は、2018 年 5 月 13 日（日）二子玉川ライズ ガレリアにて、子どもたちと大人と一緒に遊べるイベント『JUMP-JAM Park』（ジャンジャンパーク）を開催しました。



（“JUMP-JAM”体験コーナーでたくさん体をうごかしました）

運動遊びプログラム“JUMP-JAM”を体験できる『JUMP-JAM Park』が、ナイキと児童健全育成推進財団とのパートナーシップにより開催され、参加者は 1000 名以上に上りました。『JUMP-JAM Park』では、勝ち負けにこだわらず、一体性や協調性、楽しむことに重きを置いた画期的な遊びを子供たちが体験しました。能力差に関係なく、すべての子どもに対して遊びを提供できるように特別なトレーニングを受けた児童館職員がサポート役となりました。

スポーツと自由な遊びを合体させた運動遊びプログラム“JUMP-JAM”を体験した子どもたちからは、「今日の遊びを毎日やってみたい」「色々な遊びができてとても楽しかった」といった声が聞けました。保護者の方からも、「子どもだけでなく親子いっしょに楽しめるのがよかった」「普段は人見知りだけど、他の子どもたちと遊んでいて驚いた。」と声が挙がりました。保護者の方に配布したガイドブックには、子どもたちが運動遊びに楽しく取り組める方法や家で遊べるゲームの方法も収録。児童館で普段から実施されている遊びを体験するコーナーもあり、多くの家族が列を作って参加しました。

“JUMP-JAM”プログラムは、子どもたちが自己肯定感や社会情動的スキルを身につけてより楽しく健康的な生活を送れることを目的としており、実施児童館は 6 月から都内 32 箇所に拡大します。“JUMP-JAM”を支える「Made to Play」はナイキが世界に掲げるコミットメントで、遊びとスポーツがもたらすベネフィットを東京のみならず世界の子どもたちに広めます。



（どのコーナーも終日多くの人で賑わいました）

【ナイキ 前田紀子リーガルディレクター コメント】

「“JUMP-JAM”を通じてスポーツと遊びのベネフィットを子どもたちにもたらすため、社員の情熱とグローバルの経験を活かせることは、ナイキとしてとても嬉しい。プログラムの遊びをデザインして児童館職員のトレーニングを実施するのに育成財団と綿密に協力をしてきました。6月から“JUMP-JAM”のボランティアになるため、ナイキの社員もトレーニングを受けています。」

【児童健全育成推進財団 阿南健太郎総務部長 コメント】

「たくさん子どもたちに“JUMP-JAM”の素晴らしさを届けることができ、嬉しく思っています。これを契機に、保護者を含めて多くの関係者に運動遊びを通じて、運動機能だけではなく社会的スキルを育むことができることを更に伝えていきたいです。」

【ご参考】

■“JUMP-JAM”について

トレーニングを受けたスタッフにより行われる画期的な遊びを通じて、子どもたちは自己肯定感や社会的スキル、運動技能を養うことができ、ポジティブな関係性を築けるようになるばかりでなく、より体を動かすようにもなります。“JUMP-JAM”プログラムは、日本の子どもたちの運動状況を考慮して開発されたスポーツと自由な遊びを合体させた新しい運動遊びプログラムです。千葉工業大学 創造工学部体育教室 引原有輝教授の監修のもと、児童健全育成推進財団とナイキが開発し、2017年12月から東京都内10箇所の児童館で実施を開始、6月には32箇所に拡大をします。児童館と“JUMP-JAM”は全ての子どもたちが無料で利用できます。プログラムを実施している児童館に連絡をして、実施スケジュールを確認した上でご参加もいただけます。

“JUMP-JAM”の遊びは、トレーニングを受けた児童館スタッフがいる安全な環境で実施されます。スポーツをより楽しむために求められる体力、俊敏性、筋力、協調運動能力を養えるだけでなく、子どもたちに必要なコミュニケーション能力、協調性、問題解決能力も養うことができます。ゲームの勝敗を重要視せず、メンバーとの一体性や協働性をうながし、子どもたちの間の社交性を助長し、子どもたちが自ら考え、表現することをうながします。

<“JUMP-JAM”プログラム実施児童館（2018年5月現在）>

児童青少年センターフレンズ本町（渋谷区）、松が谷児童館、千束児童館（台東区）、晴海児童館、堀留町児童館（中央区）、つつじヶ丘児童館、染地児童館（調布市）、興望館、江東橋児童館、東向島児童館（墨田区）

※2018年6月～（22館追加）

新川児童館、佃児童館（中央区）、高田馬場第一児童館（新宿区）、外手児童館、立花児童館（墨田区）、東雲児童館（江東区）、平町児童館（目黒区）、洗足池児童館、大田区子ども交流センター（大田区）、千住あずま住区センター、佐野住区センター（足立区）、浅川児童館、中野児童館（八王子市）、西立川児童会館（立川市）、国領児童館、佐須児童館（調布市）、田園児童館、武蔵野台児童館、熊川児童館（福生市）、子どもセンターあおぞら、けやき児童館（東久留米市）、ひばりが丘児童センター（西東京市）

※実施方法は児童館により異なりますが、おおむね各児童館で最低でも週に一度は“JUMP-JAM”プログラムを実施しています。

■児童館について

児童館は、児童福祉施設の一つで、0～18 歳未満の子どもたちが無料で利用することができる施設です。専門の職員（児童厚生員）を配置して、子どもたちの遊びを通じた健全育成を支援しています。東京都内には、約 600 館の児童館があります。

■児童健全育成推進財団（FPSGC）について

FPSGC は、子どもたちの健全な育成を図るため、地域で活動する児童館・放課後児童クラブ・母親クラブの活動を支援しています。子どもたちの健やかな成長を支える遊びの活動を児童館で提供することによって全国各地の子どもを育む環境を創ることに尽力しています。また、児童館スタッフの継続的な学びと成長の重要性も認識し、トレーニングやワークショップを通じてこれを支援しています。

<https://jidoukan.or.jp/>

■ナイキ・コミュニティー・インパクトについて

ナイキは人間の可能性を解き放ち、コミュニティーを形成する上でスポーツが持つ力を信じています。我々はこの信念を貫くべく、Made to Play というスポーツと遊びを通して子どもたちに体を動かしてもらい、より健康的で幸福な人生を送ってもらうための取り組みを行っています。地域のパートナーおよび世界中の社員とともに、世界の 1600 万人以上の子どもたちがより明るい未来に向かって走り回り、飛び回り、遊び回れるように、画期的な手法でその取り組みがデザインされています。能力に関わらず全ての子どもたちが平等に遊べる場をつくり、子どもたちをより活発にするためのナイキのコミットメントについて知りたい方は以下のリンクをご確認ください。

<https://communityimpact.nike.com/>

【JUMP-JAM プログラムに関する問い合わせ】

一般財団法人 児童健全育成推進財団

TEL : 03-3486-5141（平日 9～18 時）

【報道関係者様からの問い合わせ】

『JUMP-JAM Park』広報事務局(ひとしずく株式会社内) TEL.045-550-4141 FAX.045-330-6853

担当:たかはし/こくぼ メール: press@hitoshizuku.co.jp